

事業所名 グループホーム小町

運営推進会議等開催報告書

開催日時 令和 4年 6月 24日 (金) 時 分～ 時 分		
参加者	議題	
利用者	0名	1 行事報告
利用者家族	0名	2 今後の行事報告
地域住民の代表者	3名	3 利用者様状況報告
市職員	1名	4 参加者様からのご質問とグループホーム小町の返答
地域包括支援センター職員	1名	5 身体拘束適正化検討委員会の議題
事業所	3名	6 次回会議開催予定日
会議録		
<p>☆6/24 開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から書面開催を行います。</p> <p>☆新型コロナウイルス感染拡大防止対策について 前回同様、引き続き新規感染者数が落ち着くまでは、皆様にご不便、ご迷惑をお掛けしますがご理解の程宜しくお願い申し上げます。 感染拡大を防ぐ為に職員一人一人が人込みを避け、マスクの着用、手洗い、うがい、手指消毒を実施し、三密にならない様に危機感を持ち、自己管理を徹底していきます。暑い季節となってきました。利用者様その他介護職員一同、体調を崩さない様、衣類の調節や十分な水分補給、休憩を行い、健康管理に努めつつ、安心安全な体制でグループホームでの業務に取り組んで参ります。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。</p> <p>☆中止に伴い出席予定者にレジメを文書で報告・意見照会を行いました。 意見照会(瀬戸市役所高齢者福祉課 1名 家族様 0名 民生委員 0名 地域包括支援センター1名 地域住民代表 3名)</p> <p>1. 行事報告 【5月】 5日 端午の節句に利用者様の健康を祈り、菖蒲湯のお風呂に入りました。 7日 母の日に利用者様のご家族様よりメッセージカードを頂き、感謝行事を行いました。 13日 消防避難訓練を実施しました。</p> <p>【6月】 13日 理美容を行いました。</p>		

18日 バーベキューを昼食に行いました。

2. 今後の行事予定

【7月】 7日に七夕の日としてイベントを行う予定です、
他利用者様のお誕生日会を行う予定です。

3. 利用者状況報告(令和4年6月24日現在)

- ・利用者様 8名 (女性8名 男性0名)
- ・平均年齢 88.3
- ・平均要介護度 2.3

4. 参加者様からのご質問とグループホーム小町の返答

◇ご意見①

5月に行った消防避難訓練の結果はどうでしたか。
良かった点や今後の課題、また気づき等があれば教えてください。(瀬戸市役所高齢者福祉課)

→①のご意見に対するグループホーム小町の回答

ご質問ありがとうございます。

消防避難訓練は予定通り実施することができました。想定内容は、

「夕食準備中に地震により強い揺れを感じた。

そして台所の火の消し忘れにより、コンロから火災が発生する。」という設定でした。

初期消火→通報訓練→避難訓練の流れで実施をし、避難までに要した時間は5分5秒でした。反省点は『押し車の人は避難誘導後、行動に遅れが生じたので、車椅子で避難すべきだった』『初期消火後、通報までに時間がかかってしまったので素早く通報する心がけが必要であった』ということが挙げられました。

避難訓練の参加者：入居者様8名、職員4名の合計12名で実施しました。

◇ご意見②

いつもお世話になっております。レジュメ拝見しました。コロナ禍でのイベント開催など新しい取り組みでのウィズコロナ。これからも大変かと思いますが、宜しくお願い致します。(地域包括支援センター)

→②のご意見に対するグループホーム小町の回答

ご質問ありがとうございます。今後とも引き続き手洗い・うがい・換気などをして、感染予防対策を実施して運営して参ります。

ご意見③

お世話になっております。特に意見はございません。今年度も宜しくお願い致します。(地域の保育園)

→③のご意見に対するグループホーム小町の回答

ご意見ありがとうございます。今後とも引き続き感染予防対策を徹底して参ります。

5. 身体拘束適正化検討委員会

議題 「帰宅願望による身体拘束について」

◇帰宅願望とは

「家に帰りたい」「早く仕事場に戻らないといけない」「家族に会いたい」という想いが帰宅願望として出てきて、「徘徊・失踪」をしてしまうことを言います。そういった場合に施設側の対応としては「身体拘束はせずに帰宅願望による徘徊や失踪など防ぐことが可能である」という考えを徹底して指導教育を行っています。

施設で共同生活されている入居者様の多くは、「本当は家で過ごしたい」という帰宅願望を意識の中に潜めています。しかし、帰宅願望があるのか、帰宅願望がないのかを知ることはとても難しいです。何故なら本人の言葉からは「家に帰りたい」と言葉にしないことが多い為です。人によっては言葉にできない人も多くいます。入居者様の心の中に眠っている帰宅願望は介助者側が常にアンテナを張って入居者様のお気持ちや生活の状況を観察し、しっかりと見守りをしていくことで帰宅願望による事故を未然に予測することが可能だと感じます。

「家に帰りたい。家に帰らなければならない」という願望は、施設で入居されている人の心の中に常にあります。決して消えることがない願望であると認識する必要があります。介護に関わるすべての職員がこのことを知り、対応方法を学び、実践をしなければ帰宅願望に対するケアは疎かになってしまいます。

◇帰宅願望とは、どの様な兆候か？

帰宅願望の抱く人が「なぜ私はここにいるのか？ここはどこなのか？なぜ私はここに居なければならないのか？私の家はどこにあるのか？私の仕事はどうなっているのか？家族は私がいなくて困っているのではないか？」と頭の中でふと疑問に思ってしまうことから徘徊や失踪が起きていると想像できます。

本当の目的や意図は本人しかわかりません。しかし、「帰宅願望を抱くきっかけ」が必ずあります。代表的な例は「写真」です。人の記憶にアプローチする最も大きな情報ルートは視覚からくる情報です。その次に聴覚からくる情報であり、最も記憶に残りにくいのが言語からくる情報です。

話を戻しますと、家族の写真や仲の良かった人との写真を見た途端、頭の中は家族のことでいっぱいになります。

「会いたい。」

「会って家族と一緒に暮らしたい。」

「私が家に帰らなければ、家族が困ってしまう。」

という気持ちが沸々と心の中に広がります。もしも支援をする職員が逆の立場であったならば、どういう気持ちになるのでしょうか？そのことを少し考察します。きっと「ここは私の家ではない。家に帰ってやるべきことがある」と思ったり、「私の家はこ

こではない。私は私の家でゆっくり過ごしたい。本当のことを言えば私は家族と一緒に過ごしたい。私は家に戻りたい。」と思うことが普通であり、自然なことだと認識しています。しかし、ここで難しいことは、「だからといって良き思い出の写真を見せない」ということではないという事です。何故ならば、人は様々な感情を持ち、喜怒哀楽のある生活を営むことが、その人の尊厳の保持につながるからです。

◇帰宅願望による身体拘束を防ぐ方法

個別具体的な対応方法をする必要があります。その為には「状況の観察」と「情報の共有」と「チームアプローチによるケアの積み上げ」が必要です。この3つを軸に懇切丁寧にケアを実践することで「帰宅願望による身体拘束は未然に防げる」確率は格段にアップします。上記3つのキーワードを元に職員が意識して行うべき対応方法は以下の通りです。

- ・心に寄り添った、丁寧な言葉で会話をする。
- ・心に寄り添って、しっかりと傾聴をする。
- ・心に寄り添って、適切にスキンシップをする。
- ・心に寄り添って、「何が課題なのか？」という情報を記録・共有する。
- ・職員側が常に冷静に落ち着いてケアが出来る様に務めること。

◇まとめ

以上のことを踏まえて帰宅願望がある状況でも身体拘束をせずに対応することが可能となります。利用者様の個々の環境要因を十分に把握し、チームアプローチによる多職種連携をして、帰宅願望がある人にとって安心・安全な対応を心がけて支援をして参ります。

以上。

6. 次回会議開催予定日

2022年8月26日（金） 14:00 開催予定